

2024 年度専修大学経営研究所中国上海実態調査報告

李建平 専修大学経営学部教授

山崎秀彦 専修大学経営学部教授

2024 年 12 月 26 日に専修大学経営研究所所長李建平教授、所員の山崎秀彦教授、蔡
芒錫教授および遠山浩教授は中国上海市に行き、上海對外經濟貿易大学、東華大学、
上海市文来高校および藍怡科技術集団有限公司社本部を訪問し、また、上海展覽センタ
ーを見学した。以下に訪問先の概況や特徴などを述べる。

2024 年 12 月 27 日午前に上海對外經濟貿易大学の国際商務外国語学院を訪問し、そ
この劉根春書記、雷春林副院長、金鏡玉教授、錢曉波副教授、李波講師、唐怡馨秘書
と会談した。

上海對外經濟貿易大学の原名は上海對外貿易学院であり、1960 年に創立され、もと
もと中国国家對外貿易部所管の大学であったが、1994 年に上海市政府管轄の大学に変
わり、2013 年にその名称が上海對外經濟貿易大学に変更された。

その大学には長寧キャンパス、松江キャンパス、閔行キャンパスとの三つのキャン
パスがあり、総面積は 67 万平方メートルである。国際經濟貿易学院、国際商務外国語
学院、金融管理学院、法学院、工商管理学院、会計学院、展覽とメディア学院、統計
と情報学院、マルクス主義学院、国際組織学院、国際中国語教育学院、開放教育学
院、体育健康学院、創業学院との 14 の学部、そのほかに国際經濟貿易研究所、国際発
展協力研究院、世界貿易組織研究院、人工知能と変革管理研究院、国際經濟貿易のイ
ノベーションと管理研究院などの研究機関が設置されている。在学の学生数は 14,000
人を超え、そのうち、学部の学生は 10,000 人に近く、大学院の学生は 4,000 人を超え
ている。専任教員は 900 人である。

全国の大学の中でその大学は国際貿易理論や政策の研究において優れている人材が
おり、その分野における研究レベルも全国でトップとなっている。したがって、中国
教育部に 2021 年博士学位授与機構、2024 年に涉外法学人材の教育基地と認定された
のである。

2024 年 12 月 27 日午後に東華大学外国語学院を訪問し、その戴葉萍書記、張曦副
院長、日本語学科の陳月娥教授、勞軼琛副教授と会談した。

東華大学の原名は華東紡績工学院であり、1951 年に創立された。1960 年に中国教育

部に全国重点大学と認定され、その名称は1985年に中国紡績大学に、1999年に東華大学に変更された。1998年に国家「211工程」重点建設の大学、2017年国家「双一流」建設の大学と指定された。211工程(Project 211)とは21世紀に向けて、重点建設100校の大学と重点学科の建設工程のことであり、1995年11月に中国国務院によって主導されてきたものである。

その大学には松江キャンパス、延安路キャンパス、新華路キャンパスとの三つのキャンパスがあり、保有する土地の面積は1.33平方キロメートル、建築面積は86万平方メートルである。紡績学院、服装とデザイン学院、旭日工商管理學院、機械工程学院、情報科学と技術学院、コンピューター科学と技術学院、化学と化工学院、素材科学と工程学院、環境科学と工程学院、生物と医学工程学院、人文学院、マルクス主義学院、数学と統計学院、物理学院、外国語学院、体育部、生涯教育学院(ネット教育学院)、国際文化交流学院、上海国際ファッション創造学院との19の学部、機能素材研究センター、紡績サイエンスイノベーションセンター、民用航空複合素材協同イノベーションセンター、先進低繊維素材センター、上海国際ファッション研究センター、東華大学環境デザイン研究院、東華大学人工知能研究院などの研究機関が設置されている。在学の学生は27,000人を超え、そのうちに、学部の学生は15,000人、修士課程の学生は9400人、博士課程の学生は2100人、外国人留学生は600人である。専任教員は1500人である。

東華大学の訪問を終えて、上海市閔行区にある上海市文来高校を訪問し、その黄健校長、夏雪梅副校長、秦琦副校長、張健事務局長、日本進学部副部長尹帥、日本語教員張安涛および日本進学部7名の高校生と会談した。

文来高校は1994年に創立され、当初上海市における私立高校の中で初の政府の認可を受けた高校である。黄健校長は文来中学校の理事長仇忠海の「人文重視」の教育理念を継承し、2007年に「人文重視、学生の成長に有利な多様なキャンパスを提供する」という教育ビジョンを掲げてきた。その高校は、国内進学部、アメリカ進学部、日本進学部という三つの部分によって構成され、あわせて29のクラスが設置されている。現在、国内進学部には300人の学生、アメリカ進学部には150人の学生、日本進学部には500人の学生が在籍している。

国内進学部は、中国国内の他の高校に比べて、教育レベルが比較的高く、強い競争力を誇っている。大学進学率は100%、そのうち、中国国内の国立大学の進学率は約30%に達しており、そのうち、清華大学、北京大学、復旦大学、上海交通大学という名門

大学の合格者が多数いた。

日本進学部は、九州大学、立教大学、南山大学、愛知大学、昭和女子大学、京都女子大学など多数の日本の大学と提携関係を結び付け、それらの大学の海外指定校の資格も取得したので、最近、上海市においてかなり強い競争力を持つようになり、大きく注目されている。2024年に、日本進学部の60名以上の学生は日本の大学に合格した。そのうち、東京大学1名、早稲田大学4名、慶應義塾大学2名、筑波大学2名、名古屋大学1名、立教大学4名、法政大学4名の合格者もいる。また、日本進学部の学生汪怡汝は2024年度日本留学試験の理系のトップの成績、学生駱屹は2024年度日本留学試験の文系のトップの成績を取得した。

文来高校は2010年に複数の海外進学コースを導入し、10年以上の発展を経て、国内進学コースと海外進学コースが併存するデュアルトラックの教育システムを構築した。また、上海市教育委員会によって海外カリキュラム導入実験校(21校)の一つ、アメリカ大学理事会(College Board)によってAP教育カリキュラム認定校、イギリスのA-level 試験センター、J. TEST 実用日本語検定試験センターと認定された。

他方、文来高校は海外大学との提携にも力を入れている。上述した日本の大学のみならず、カナダのトロント大学と優先入学(グリーンチャンネル)協定も締結した。また、アメリカのカリフォルニア大学リバーサイド校の指定提携高校、オーストラリアのシドニー大学およびイギリスのランカスター大学の大学別科によって指定提携高校と認定された。

2024年12月28日午前に、上海市静安区延安西路に位置する上海展覽センターを見学した。その展示場はソ連の経済的・技術的援助を受け、中ソ友好記念会館として1954年5月4日に着工し、1955年3月5日に竣工したものである。先細りの塔状の中央ホールを中心軸上に配置した典型的なスターリン様式となっている。両翼部には展示室、映画館、会議室等が設けられた。

1959年に上海市政府の決定により常設の工業展示場とされ、1968年に「上海展覽館」、1978年に上海市工業展覽館」順次改名され、1984年に現在の「上海展覽センター」(中国語：上海展覽中心)とされた。その敷地面積は93,000 m^2 、延床面積は80,000 m^2 である。そこでは様々な展示会のみならず、政府のいろんな重要な政治活動や文化活動の場としても利用されてきた。例えば、政治活動として、1972年2月に中国を訪問したアメリカ大統領ニクソンを歓迎する晩餐会、1996年4月にロシア大統領

など上海協力機構のメンバーとしての五か国の元首の会合、2007年11月フランス大統領ニコラ・サルコジを歓迎する晩餐会、2013年12月イギリス首相デーヴィッド・キャメロンと中英工商界の企業家との会見など重要なイベントはそこで行われた。また、1987年～2012年に、江沢民、朱鎔基、呉邦国など7人の上海市書記就任式もそこで行われた。文化活動として、2017年4月14日～17日に上海市一期目のファッションショー、2018年8月に2018年度上海市中国書道展、2024年6月4日～18日に第26期上海国際映画祭映画市場展覧会などがそこで行われた。

12月28日午後に、上海市藍怡科技有限会社を訪問し、その会社の研究開発部を管轄する副社長朱偉冬、総合管理部部長陸海華と会談した。朱副社長は、その会社の概要や理念や主要な製品などを紹介した。

上海市藍怡科技集団有限会社（以下：藍怡）は、2000年8月に上海市閔行区に設立されたものであり、2005年には上海ハイテク企業として認定されている。代表取締役会長李子樵氏は、その会社の創立者であり、かつて日本の名古屋大学医学部で一年半勉強したことがあり、その日本留学経験を活かし、創業時より「人類の健康事業に貢献し、社会から尊敬されるハイテク企業になる」という企業理念を掲げて、医療機器の分野において開発・生産・販売に努力してきた。藍怡は、現在資本金が5,459万元、会社員が354人、2021年の売上高が34,129万元、2022年の売上高が35,894万元、2023年の売上高が31,176万元に達した。藍怡の組織体制としては、上海に本社、湖南省に工場、浙江省と江蘇省に開発拠点を置き、東京都大田区にアオテック株式会社という営業拠点を、新横浜にAotechという開発拠点を有している。

藍怡は、創業初期から25年をかけて日本企業の開発や生産の技術のみならず、企業経営管理のノウハウも習って、中国市場の特性に適合する医療製品の開発や生産を行ってきたので、ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社、アボットメディカルジャパン合同会社、Siemens AGなどの国際的に有名な医療機器のメーカーと競合できる技術力をもつようになり、その製品が多数の中国国内の大学附属病院に使われている。

1. 藍怡の主要な事業と製品

藍怡は、主に医学検査分野に焦点を当て、体外診断試薬・装置の開発・生産・販売に従事し、また、丁寧なアフターサービスを提供している。以下はその主な製品である。

- (1) 高スループット全自動生化学分析装置シリーズ製品
- (2) 全自動免疫学化学発光シリーズ製品
- (3) 糖化シリーズ製品
- (4) アレルゲンシリーズ製品
- (5) 全自動検体搬送システム

(6)LIS（実験室情報システム）

(7)在宅自己検査キット

そのほかに、日本企業の設計をベースに中国に適合する生産体制を構築し、病院検査科の需要の80%をカバーする IVD 製品ラインも生産し、全国をカバーできるアフターサービスの体制を構築した。

2. 藍怡の市場優位性

藍怡は、中国において全国31省・直轄市・自治区（香港・マカオ・台湾を除く）に販売ネットワークを展開し、全国の26個所のエリアに事務所が設置され、あわせて90名の専門技術者を保有しているので、お客様に迅速かつ優良なアフターサービスを提供している。2020年に湖南省長沙市に生産基地（敷地面積：7018平方メートル）を作り、2022年からそこでの医療機器などの生産を開始した。

また、藍怡は研究開発を重視し、毎年の上高の20%を研究開発に投入している。現在、116名の技術者（全社員の20%以上）は研究開発に従事しており、すでに82件の特許（うち発明特許26件、実用新案40件、意匠登録8件、ソフトウェア著作権5件）を取得した。藍怡は開発した医療製品は2024年から東南アジア市場を中心に海外輸出を拡大し、海外の消費者から高い評価を得ている。特にアルツハイマー型認知症在宅モニタリング製品は2025年度の「ヒット商品」として注目を集めている。

3. アルツハイマー型認知症スクリーニング検査用キットの有用性と革新性

最近、アルツハイマー型認知症（以下：AD）在宅自己検査キットの開発に成功し、すでに実験用の1000本のその病気在宅自己検査キットを生産した。

ADの原因は、アミロイドβ（以下：Aβ）とタウ蛋白とよばれるゴミが脳内に蓄積することにより、神経細胞に障害が起こるためだと考えられており、株式会社エーザイのレカネマブやイーライリリー社のドナネマブといった最新のAD治療薬もAβを標的としている。

ADは、近年患者数が急増しており、しかも患者に占める若年者の割合も急増しており、患者や政府の医療負担・介護負担も急増している。そのため、日本政府も中国政府もADの早期発見・診断に熱心に取り組んでいる。

藍怡の開発したAD検査キットは、尿中のAβを検出するものであり、自宅で医師の力を借りずに容易にかつ安価に自己検査できる点に特徴がある。

つまり、国民に病院等でAD検査を行うことは時間とカネの無駄遣いであり、自己検査キットで陽性と判定されたリスクの高い国民だけに対して病院等でAD検査を行えば、時間とカネの大幅な節約になる。これが、藍怡の開発したAD検査キットの革新性の第1である。さらに、自宅で簡単に検査を受けることが可能となるため、仕事等で忙しい若年層に対しても受診を促すことができ、ADの早期発見・治療に結びつくことになる。これが、同検査キットの第2の革新性である。

こうした画期的な検査薬が日中合同で作りあげられていくことこそ、両国間、アジア太平洋地域そして世界の平和と安定につながっていくものであると確信して、実態調査を終了した。